

ロジスティクスプロバイダーから見た レジリエントな震災ロジスティクス

2011年9月13日

日本通運株式会社 業務部 専任部長 興村徹

With Your Life



このたびの東日本大震災により
被害を受けられました皆様に
心よりお見舞い申し上げます



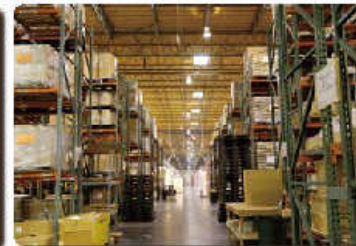
GLOBAL LOGISTICS



日本通運は、世界をつなぐ、動かす。



SUPPLY CHAIN MANAGEMENT



世界経済やトレンドが地球規模で変動し、もはや国内と海外の垣根がない現代、グローバル化・IT化はさらに加速度を増して“人の生活やビジネスのスピード”までも変えました。そしていま、需要と供給の連鎖は世界の至るところでリアルタイムに発生し、物流は新たなステージに突入しようとしています。日本通運では、日本をはじめ米州、欧州、さらなる発展が見込まれる東アジア、南アジア・オセアニアの5種体制を展開、陸・海・空、多様な輸送モードを駆使し、国や地域といった境界線を越えて人や企業を結ぶ物流のコンサルタントとして、ワンストップのビジネスソリューションを提供します。さらに世界に散在する在庫についてもグローバルレベルでの最適化を実現します。



SOLUTION PARTNER



ECOLOGY & SAFETY

そして、物流業界のリーディングカンパニーとして、地球環境保全に対する責任は重大です。日本通運では、モーダルシフトの推進、共同集配・運行の実施、反復梱包資材の開発、さらには環境配慮車両の導入やエコドライブ活動など、環境ビジネスの進化・発展、CO₂の削減やリサイクルによる循環型社会の実現を推進していきます。



■ 目 次 ■

1. 発災による情報途絶時における
ロジスティクス体制構築の必要性
2. 物流事業者が執るべき
レジリエントな事業継続計画

1. 発災による情報途絶時における ロジスティクス体制構築の必要性

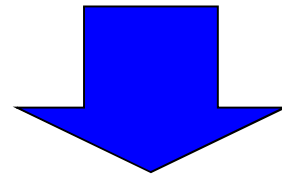
東日本大震災の特徴

- 大規模かつ広域的な震災
- 地震の揺れと津波の両面被害
- 幹線ルートから離れた地域で甚大な被災

阪神淡路大震災とは異なる特徴

救援物資輸送の目標

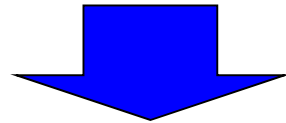
迅速・確実に必要な物資を十分に供給



ロジスティクスの実践

目標の実現に向けて（初動期）

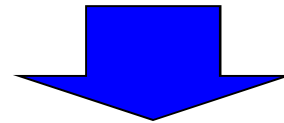
情報が途絶した
被災地の状況把握ができない
地元の備蓄が流失した



ルートの啓開
プッシュ型の供給
被災地外の備蓄の供出

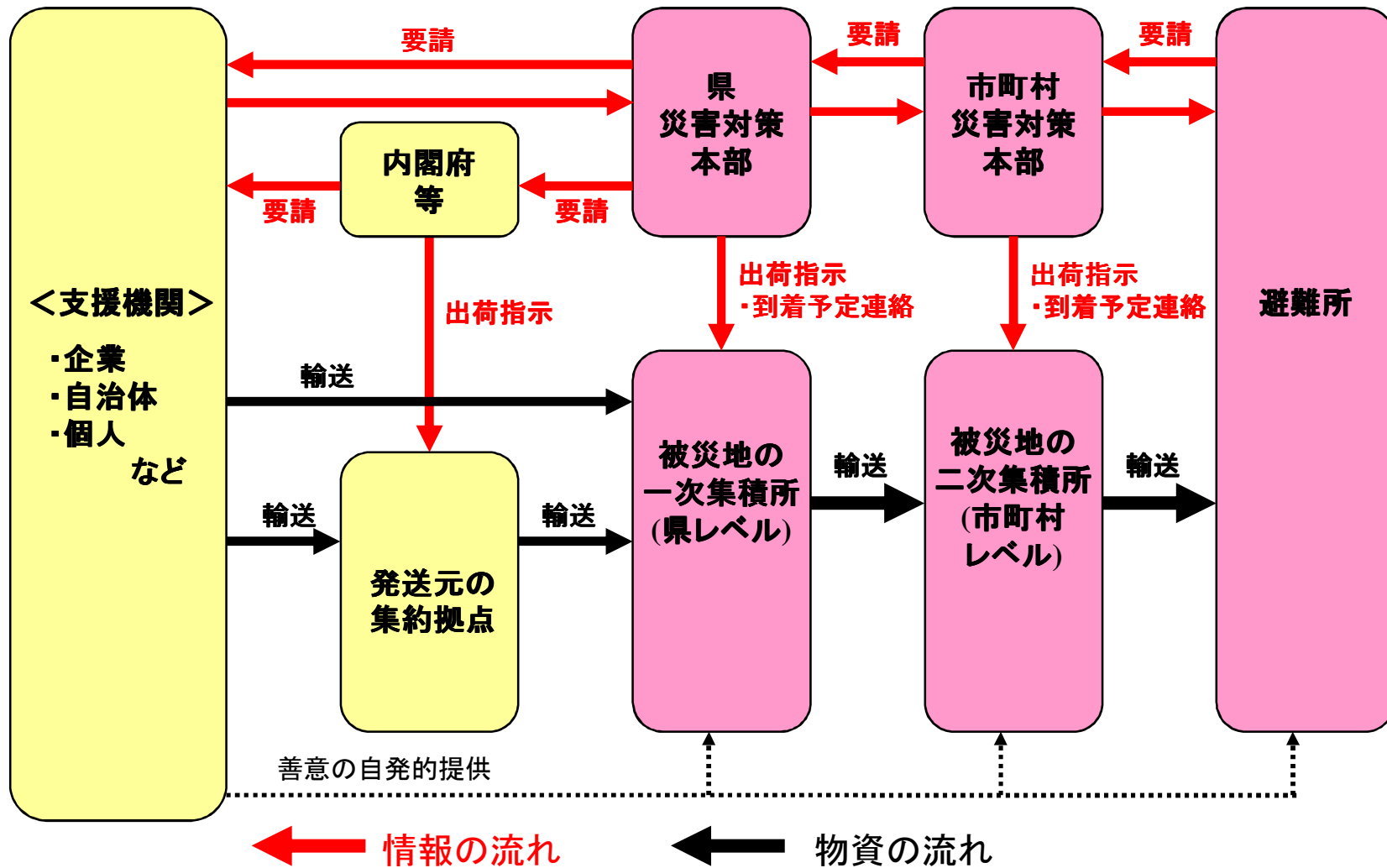
目標の実現に向けて（初期）

関係者が増え、指示系統が錯綜した
物資集積所が分散した
がれきで配送が滞った



情報流動の一元化
大規模集積所の設置
「ラストワンマイル」の開削
がれきの中の「離れ小島」の解消

緊急救援物資の供給フロー（宮城①）



緊急救援物資の集積拠点運営（岩手①）

滝澤村岩手産業文化センター<アピオ>

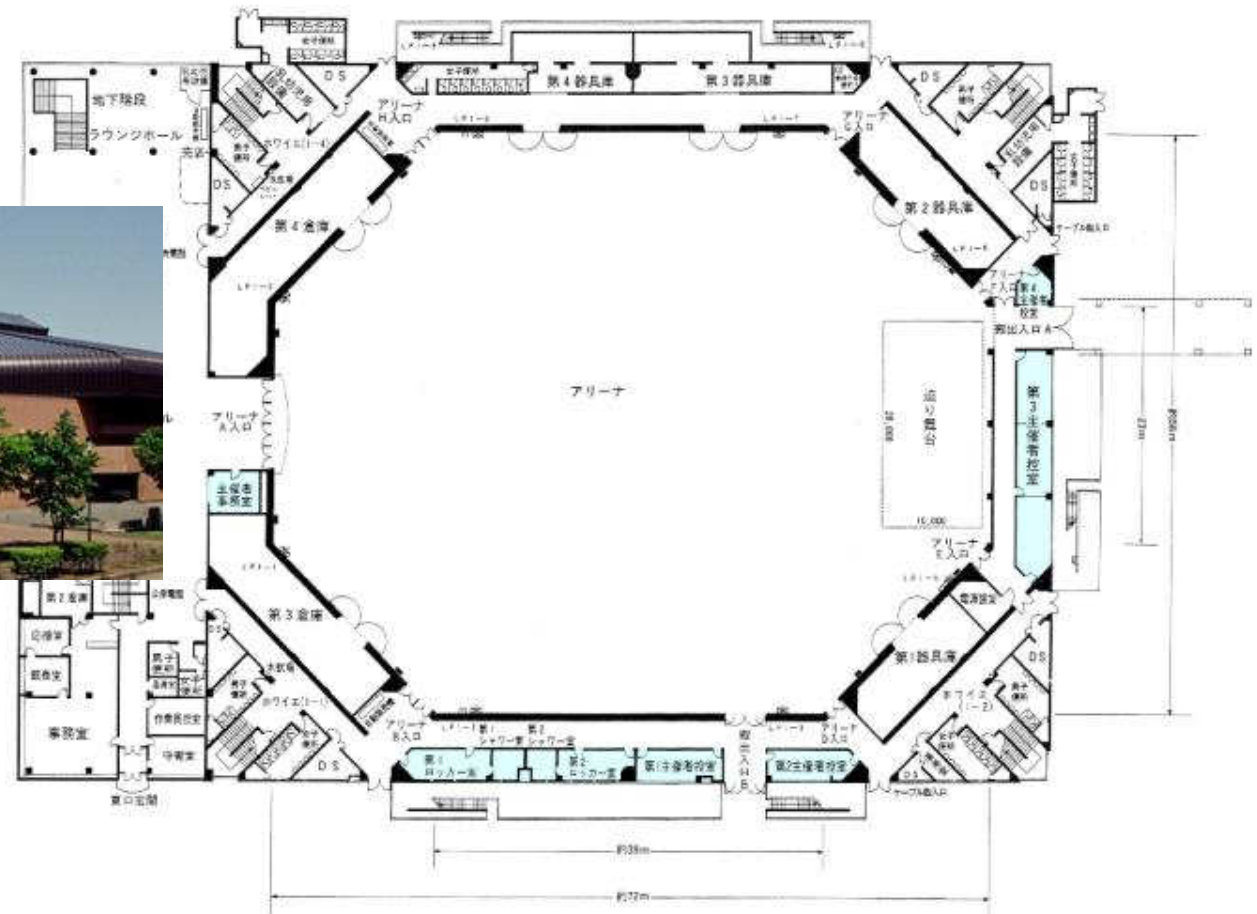
床面積：約3,600m² 床面はゴムチップ入りウレタン塗仕上

耐荷重：5t/m²

搬入口：搬出入はA搬入口（W3.3m×H4.5m）大型トラックでの直接乗り入れ可能



（出典）アピオ／ホームページ



緊急救援物資の集積拠点運営（宮城②）⁰⁸

二次集積所（■▲市）

どの物資がどこに？（ロケーション管理の不在）



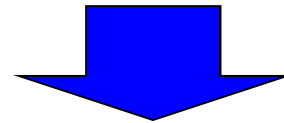
緊急救援物資の集積拠点運営（宮城③）

梱包方法（1 梱包 1 商品等）バラバラ／職員が仕分け
支援物資の記載内容もバラバラ
善意の自発的提供



目標の実現に向けて（初期）

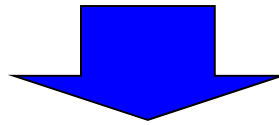
関係者が増え、指示系統が錯綜した
物資集積所が分散した
がれきで配送が滞った



情報流動の一元化
大規模集積所の設置
「ラストワンマイル」の開削
がれきの中の「離れ小島」の解消

目標の実現に向けて（中期）

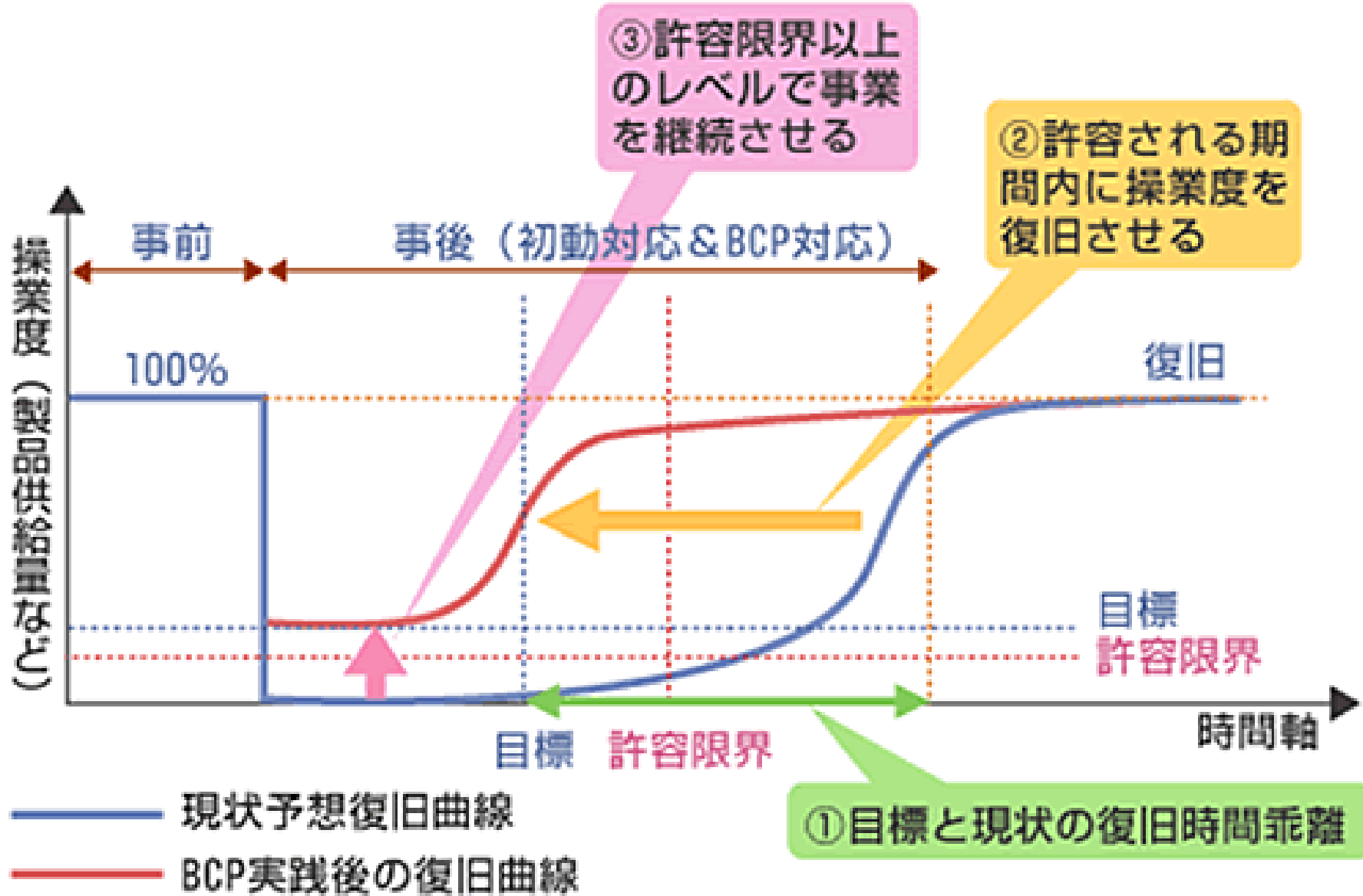
通常の社会へ復帰を目指す時期



自衛隊から民間事業者へ
救援物資の供給から商業活動へ

2. 物流事業者が執るべき レジリエントな事業継続計画

BCPの概念図



出所：内閣府「事業継続ガイドライン第2版」、日通総研「ロジスティクスレポートNo.18」

リスクの洗い出し

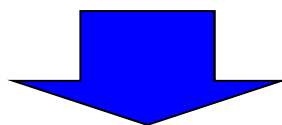
サプライチェーンの構成要素としての観点で

受容不可能な（自社対応不可）リスク

☆許容可能な（自社対応可能）リスク

無視できる（特段の対応不要）リスク

に評価・分類

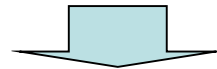


☆許容可能な各リスクの対応策を事前に講じておく

BCPの考え方

現況の把握と被害想定を行い

- ①避難 → ②発災報告 → ③安否確認 →
 ④被害把握（建物・車両） → ⑤社内報告 →
 ⑥社員招集 → ⑦関係先連絡（顧客・行政・業界団体） →
 ⑧業務復旧 ……の順に個々の項目について、



「誰が、いつ、どこで」と実行段階で落とし込んでいく

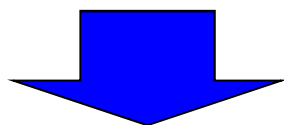
- ①総務・経理対策(社員・家族対策、情報・通信対策、資金対策)
 ②顧客・行政・業界対策、③輸送・保管対策（現場の営業所）
 ……などの



役割分担や代行順位なども、平時から定めておく

BCP策定のポイント

- (1) 事前の予防
被害緩和（減災）対策
- (2) 避難・安否確認
救命活動



繰り返し訓練を重ね、

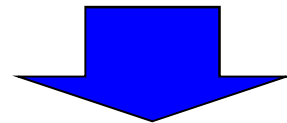
日常業務としてのBCM（事業継続マツダ）にする

BCP策定のポイント

(3) 復旧対策

(燃料確保、資金繰り等)

(4) 柔軟なBCP



繰り返し訓練を重ね、

日常業務としてのBCM（事業継続マツダ）にする

ご清聴ありがとうございました

被災地の一日も早い復興を
祈念しております

With Your Life



日本通運
NIPPON EXPRESS